

【科目名】理学療法評価学		【担当教員】松林 義人							
【授業区分】 専門分野（理学療法評価学）	【授業コード】 3-16-0575-0-1	(メールアドレス) matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com							
【開講時期】1 年次 後期	【選択必修】必修	(オフィスアワー)							
【単位数】2 単位	【コマ数】15 コマ	水曜日以外の在室時							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特になし (受講のルールに関わる情報・予備知識) 特になし									
【講義概要】 (目的) 理学療法評価は、適切な治療方針のために必要不可欠なものである。正確且つ適切な「評価」の視点に立って、理学療法評価学を学ぶが、単に機能形態障害の測定技術を学ぶだけではなく、評価の目的を理解し、その障害が生活や健康に及ぼす影響までを含めて学修することを目的とする。 (方法)各理学療法評価の目的、方法について理解し、各疾患に対する評価について理解できる講義を行う。関節可動域や徒手筋力検査法については、小テストを実施する。									
【一般教育目標(GIO)】 ・理学療法評価の流れについて理解することができる。 ・医療面接、各測定・検査方法の目的、手法について理解することができる。 ・疾患に応じた評価の必要性を理解することができる。									
【行動目標(SBO)】 ・理学療法評価について述べることができる。									
【教科書・リザーブドブック】 教科書；松澤正、理学療法評価学改訂第 5 版、金原出版株式会社、2016 年、¥6,200（税抜）									
【参考書】 田崎義明 斉藤佳雄・『ベッドサイドの神経の診かた 改訂第 17 版』南山堂、2010 年、¥7,560 ヘレン・J．ヒスロップ 津山直一 他著・『新・徒手筋力検査法 原著第 9 版』協同医書出版社、2008 年、¥7,875									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規程の GPA 制度に従う。 筆記試験と小テストと実施する。									
【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成果発 表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		60	40	0	0	0	0	0	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	60	40	0	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	0
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0

平成 26～28 年度入学者用

	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0
【授業日程と内容】								
回数	講義内容	授業の運営方法			学修課題(予習・復習)		時間(分)	
1	理学療法評価の流れ	講義			理学療法の流れについて理解する。		30	
2	リスク管理 情報収集と国際生活機能分類	講義			講義の内容をまとめて理解する。		30	
3	医療面接技法	講義			医療人として人とのかかわり方について理解し、実践する。		30	
4	触診 触診の仕方とランドマークについて	実技			ランドマークを確認する。		30	
5	触診（上肢・下肢の筋）	実技			筋の起始・停止を確認する。		30	
6	関節可動域測定	講義			関節可動域測定方法について確認する。		30	
7	徒手筋力測定法	講義			徒手筋力測定方法について確認する。		30	
8	形態測定、四肢周径	講義			こ講義の内容をまとめて理解する。		30	
9	片麻痺検査、反射（深部腱反射、病的反射）	講義			講義の内容をまとめて理解する。		30	
10	感覚検査（表在、深部、脳神経検査）	講義			講義の内容をまとめて理解する。		30	
11	協調運動機能評価	講義			講義の内容をまとめて理解する。		30	
12	呼吸の評価	講義			講義の内容をまとめて理解する。		30	
13	循環の評価	講義			講義の内容をまとめて理解する。		30	
14	姿勢・動作分析	講義・実技			講義の内容をまとめて理解する。		30	
15	まとめ	講義					60	

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。